

陶芸と文化的景観

景観研究センターは本年度より、新たなスタートを切った。窯業が生み出す景観の保全を北部九州で追究する研究プロジェクトが始まった。本セミナーはその一環で行われる4回のレクチャーシリーズである。

今年度のテーマは「陶芸と文化的景観」。小石原、小鹿田、高取、星野、一の瀬、有田・伊万里、唐津、波佐見、三川内など、北部九州には多くの陶芸とその里がある。伝統的な工芸である陶芸の里の成立要件を知り、文化を象徴する景観を活かしたまちづくりを考える礎のひとつとしたい。



第1回 9月28日(金) 18:00-19:30

九州産業大学 商学部 観光産業学科 教授

横山 秀司

「陶芸の里の文化的景観における自然的基盤」

陶磁器産地の立地には、陶土の存在、陶土を粘土化する水力、燃料としての森林が必要であった。北部九州の陶磁器産地の自然的背景を概観した後、小石原焼の立地に関する自然的基盤の分析を行う

第2回 10月26日(金) 18:00-19:30

九州産業大学 景観研究センター 博士研究員

丸谷 耕太

「原材料と技法にみる伝統工芸と産地」

全国の伝統的工芸品の産地の歴史的変遷から人間と自然の関係を把握し、原材料や技法から伝統工芸における文化的景観を考える



第3回 11月14日(水) 18:00-19:30

九州産業大学 国際文化学部 講師

李 泰勲

「慶尚南道鎮海市の「齊浦」と熊川窯址」

中世後期、日本人向けに開港されていた「齊浦」と近接する熊川窯との相互交流について考察する



第4回 12月14日(金) 18:00-19:30

高取焼 宗家

高取 七絵

「高取焼とその風土」

小石原焼、小鹿田焼に影響を与えた高取焼の宗家が立地する小石原鼓の風土を学び、陶芸と景観との関係を探る

※参加費無料

場所：九州産業大学景観研究センター 景観ライブラリー(23号館4階)

主催：九州産業大学 景観研究センター

平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成事業

「北部九州の窯業に着目した

文化的景観の形成と保全に関する研究」

連絡先：

福岡市東区松香台 2-3-1

九州産業大学 景観研究センター

<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/J/landscape/>

(電話) 092-673-5501 (産学連携支援室)

(E-mail) sangaku@ip.kyusan-u.ac.jp